

動作法東北ネットワーク JAPAN 2023 福島大会（対面及びオンライン）要項

動作法は、1960年代に成瀬悟策先生によって開発され、半世紀以上に渡り、臨床実践及び研究が進められ、発展を続けてきました。はじめは脳性マヒの方々の肢体不自由の改善が目的でした。その後、知的障がいや発達障がいによる心理面や生活上の困難の改善、災害等による過剰なストレスが招いた心理的不調に対する支援、教育現場におけるストレスマネジメント、高齢者の健康増進、育児支援方法等、多岐にわたってきております。

福島では東日本大震災・福島第一原子力発電所事故の影響が少なからず残り、昨年は震度6強の地震もありました。また、新型コロナウイルス感染症がなかなか落ち着かず、第8波の影響がまだまだ残っています。ロシアのウクライナ侵攻も収束が見えず、気候変動による豪雨や大雪等、誰にでもストレスフルな状況に置かれる現状があります。そのような中、新型コロナウイルスも5月連休明けに感染症法上の分類を季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げることが決定され、新たな対応が求められています。

現在、新型コロナウイルスの影響により、動作法は大きな制限・制約を余儀なくされていますが、訓練会が再開されはじめ、少しずつ改善の兆しが見え始めています。

そこで今大会は、『時代の変化に対応する動作法の在り方の探求Ⅱ～ストレス社会を生き抜くために～』をテーマにし、このストレスフルな時代に動作法が果たすべき役割はどういったものか、そして、動作法を通して具体的に何ができるのかを探っていきたくと考えています。

今回、ウイズコロナ時代を見据え、対面及びオンラインでのハイブリッド型の研修会としました。動作法の意義であるところとからだのつながりを取り戻し、自分らしく生きるために、みんなで学んでいければと考えております。

大会長 福島県障害児・者の動作学習研究会 芳賀孝美

1 期日 2023年7月2日（日） 対面及びオンライン（ZOOM）による開催

2 場所 郡山市障害者福祉センター
〒963-8833 郡山市香久池一丁目15番15号 Tel. 024-934-5811

3 日程

（ 9:00 から入室できます ）

9:20 開会行事

○大会長挨拶

○理事長挨拶

○講師紹介

9:30 講演『時代の変化に対応する動作法の在り方の探求Ⅱ

～ストレス社会を生き抜くために～』

鶴 光代 氏（秋田大学 名誉教授）

10:50 休憩

11:00 実技指導（立位） 鶴 光代 氏（秋田大学 名誉教授）

12:00 食事休憩

13:00 話題提供・実践発表①荒川 智 氏（岩手県立花巻清風支援学校）

「彼のイス坐位はどう変わったかーあえて声かけについてー」

13:30 コメンテーターから 鶴光代 氏、宮崎昭 氏

14:00 話題提供・実践発表②熊谷 健 氏（青森県立七戸養護学校）

村川 圭亮氏（青森県立弘前第二養護学校）

小川 知子氏（弘前市立第三中学校）

「青森県心理リハビリテーション学習会の実践

～オンライン月例会の取り組み～」

14:30 コメンテーターから 鶴光代 氏、宮崎昭 氏

15:00 閉会行事

○理事長挨拶

○大会長挨拶

○諸連絡